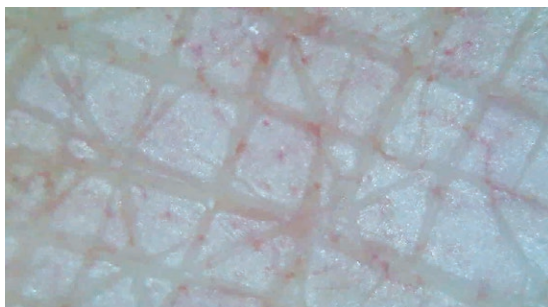


# 肌のキメ&くすみ観測に挑戦

ご購入はこちら

上田 智章



(a) キメがあると反射光が多い

写真1 肌のキメ

写真3に示す内視鏡カメラで撮影した



(b) キメがないと反射光が少ない

写真1は、倍率200倍で観測した肌のクローズアップ写真です。写真1(a)がどちらかと言えばキメのある肌、写真1(b)がキメのないシミのあるくすんだ肌です。一般的にくすんだ肌はキメが損なわれた状態だといわれます。

肌のキメとくすみの関係を調べるために、iPhoneに装着できるマクロレンズ(写真2)と、棒状の内視鏡カメラ(UVC、写真3)を購入しました。

## ● 顕微鏡画像で見えてくる

写真1(a)の方が、写真1(b)よりも白色照明を反射して、白くハイライト状態になっている部分が多くなっています。皮膚表面のハイライト反射光のせいで、写真1(a)は皮膚全体が明るく見えています。同じ光量なら表皮で反射する成分が多く、真皮層より深く浸透する光量は少なくなり、ヘモグロビンで吸光されずに反射される成分も相対的に減る結果となります。

反対にキメのない肌は表面反射する光が少なく、深部に浸透してヘモグロビンで吸光され、乱反射して戻ってくるので、全体として反射光は暗くなり、くすんだ印象になります。

化粧水、乳液、スキンクリームはどれも肌の保湿を行うためのスキンケア・グッズです。若い人は化粧水、老人はクリームというように年齢にあったグッズ



(a) マクロレンズ(VINSIC)



(b) 実験の様子

写真2 スマホ用の拡大(マクロ)レンズで肌のキメを観測